

会 議 録

会議の名称	第10回宍粟市地域創生戦略委員会	
開催日時	平成30年6月29日（金）13時00分～15時30分	
開催場所	宍粟市役所本庁舎 3階 庁議室	
議長（委員長・会長）氏名	林 昌彦	
委員氏名	（出席者） 林 昌彦、三渡 圭介、岡本 一也、 春名 千代、田口 すみ子、山田 寛、 古根川 淳也、種谷 淳	（欠席者） 玉田 恵美、長田 博
事務局及び担当部氏名	宍粟市 （事務局・担当部） 企画総務部：坂根部長、水口次長 地域創生課：西嶋課長、藤原副課長、前田係長、大畑主査、朱山主査 産業部：名畑部長、田路次長 林業振興課：中村課長	
傍聴人数	0名	
会議の公開・非公開の区分及び非公開の理由	<input checked="" type="checkbox"/> 公開・非公開	（非公開の理由）
決定事項	（議題及び決定事項） 1 開会 2 あいさつ 3 協議事項 （1）今年度の戦略委員会の議論テーマとスケジュールについて （2）戦略事業の個別事業評価について （3）平成29年度の実施事業と平成30年度の取組について 4 その他 5 閉会	
会議経過	別紙のとおり	
会議資料等	別紙のとおり	
議事録の確認（記名押印）	（委員長等） _____ 印	

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容
事務局	1 開会
事務局	2 あいさつ (事務局自己紹介) (委員長あいさつ)
委員長	協議事項が3点あります。その中の2つ目は戦略事業の個別事業評価ということで、今回は特に林業の雇用に関わる事業を対象としております。行政内部での行政評価というものもありますが、この場では、市民目線から見た評価をしていただくということとなります。今日は、担当部の方々が来られていますので、詳しい説明をしていただけたと思います。雇用を増やし人口を増やすということは簡単にできることではないですし、その効果はすぐに現れるものではありませんが、今できることを進めていくことが大切だと思います。 今の戦略計画も残り期間が少なくなっていますので、次の計画を考えないといけない時期にきています。将来の世代のために、今の事業をどう改善していくのか、ということ議論していければと思います。よろしくお願いします。
事務局	3 協議事項 (1) 今年度の戦略委員会の議論テーマとスケジュールについて 【資料1】について説明
委員長	委員会の開催回数が増えるという結果になっています。ただ回数を増やせばいいというものではありませんので、何を議論するために回数を増やす必要があるのかを示して欲しいということで、この表を作っていただきました。ご意見ありますでしょうか。
委員	私の参加している別の委員会では部会方式で4、5人のグループに分かれて議論を行っています。少人数のグループの方が意見を出しやすく、実のある議論ができるのではないかと思います。進め方のこともあるので、参考意見として述べさせていただきます。
委員長	全ての議題について、部会方式が良いのかという問題はありますが、適した内容で使い分けることが必要かもしれません。 他にご意見はありますでしょうか。ご意見がないようでしたら、私から1点準備してきたものがありますので、説明させていただきます。 【参考資料1-1及び1-2(地域経済循環図)】について説明

委員長	<p>宍粟市の地域経済循環率が2010年から2013年までの3年間で2.8ポイント下がっており、経済力が低下していることが分かります。地域経済循環率を指標として、いかに地域の中で経済を回していくかという具体的な議論が必要と思います。その中で、先ほど説明のあった議論テーマの第二次地域創生総合戦略の策定について、経済面での具体的な事業が必要と思いますので、そういった事業を委員会でも評価していくというサイクルを作っていくことが必要ではないかと思います。</p>
事務局	<p>兵庫県立大学や宍粟市商工会とも連携しながら、平成28年度から平成29年度にかけて地域内の経済循環調査を実施しました。本調査では、市圏域での消費動向や仕入れ、販売先に関するアンケートを実施し、宍粟市の状況を詳細に調べることで強みや弱みを見極め、今後の経済的な施策につなげていこうとするものです。この調査結果に基づき、宍粟市商工会とも連携しながら、地域の経済循環率を上げていくための取組を考えていくこととしており、10月に予定している第二次地域創生総合戦略の策定に向けた議論の中で、あわせて議論を進めていきたいと考えています。</p>
委員長	<p>今年度の戦略委員会の議論テーマとスケジュールについて、他にいかがでしょうか。ご意見等ないようでしたら、本年度は資料のとおり進めさせていただきます。</p>
委員長	<p>(2) 戦略事業の個別事業評価について</p> <p>【資料2】をご覧ください。3つの事業があり、林業担い手育成対策事業、林業新規事業体育成支援事業と県立森林大学校に関わる事業となります。これらは、林業事業者の育成という点で共通しています。まず林業担い手育成対策事業、林業新規事業体育成支援事業につきまして、担当部である産業部の林業振興課より説明をお願いいたします。</p>
担当部	<p>【資料2（林業担い手育成対策補助金及び新規事業体育成支援補助金）】 【参考資料2-1及び2-2】について説明</p>
委員長	<p>今の説明について、質問、協議等をお願いいたします。</p>
副委員長	<p>林業を選定した思惑と言いましょうか、恐らく、地域経済を活性化するために宍粟市に何があるのかというところから、林業を選ばれたのかと思います。冒頭に、委員長から説明していただいた地域経済循環図の数値を見て、経済循環率が非常に下がっており愕然としました。</p>

	<p>この要因は何かというと、例えば、ロードサイドの店について、10年前であれば、ある店舗が閉店してもすぐに新しい業者が出店していましたが、今ではテナントが空いたままとなっています。北部地域では、スーパー等が閉店しています。私は謙虚にこの地域の実力がそうなっていると思う中で、行政が地場産業の活性化を図るということで林業を選定されたのだと思います。それは、宍粟市で他に地場産業といえるものが見当たらないという事情もあると思います。素麺が地場産業であるとおっしゃる方もいるかと思いますが、販売の権利もなく、一次産業の小麦を宍粟市で生産している訳でもありません。原材料も市内にあり、加工も市内で行っている林業を地域の活性化を図る材料にすることは正しいと思っています。(改行)</p> <p>【資料 2-1】内の川上と川中、素材と製材に随分支援をされていますが、一番大事な事は、それをどう売るかであり、木を植えて、育てて、それをどう加工するかよりも、どこでどうやって売られるかという観点に立っていただきたい。これが私の要望であります。例えば、県産材は、平成 29 年度の県下の素材の搬出量がバイオマスも含め 42 万 6 千 m³ですが、そのうち建材に使うのが 10 万 m³です。その 10 万 m³のほとんどが宍粟市内で生産がされています。また、兵庫県では兵庫県産木材利用木造住宅特別融資という制度があります。年間 1 戸建て住宅が約 1 万 5 千棟建っていますが、その内の 1%程度である 150 棟しか融資の対象となっていません。京阪神の材木店からは「県産材はどこで買えるのか」というような問い合わせもあります。そこを整理して、【資料 2-1】内の川下である工務店ではなく、さらに先のエンドユーザに対し、県産材並びに宍粟材の普及促進に至る啓発及び助成を行わないと利用が増えません。宍粟材で住宅をたくさん建ててもらえれば、自ずと製材も素材も良くなります。このような問題を踏まえた上で、市の政策に取り掛かってもらいたいと思います。出口を増やしていけば、川下、川中、川上も増えていくと思います。</p> <p>担当部</p> <p>担当部としましても、川中、川下それぞれの業者に、同じような支援を行っていきたいと考えています。それぞれの分野の方が企業間で連携する中で、いわゆる 6 次産業化という形で進めていきたいと考えています。</p> <p>委員</p> <p>市の方針として、6 次産業化と言われていましたが、素材業者と製材業者を連携させていこうというのが、市の役割として意識されているということでしょうか。</p> <p>担当部</p> <p>現在、調査しているところですが、市内の素材の約 85%が市外で流通しており、市内の流通が少ないと聞いています。なぜ市内で流通が少ないのかということに着目して、市内で素材の循環を進めていきたいと考えています。</p>
--	---

委員	市内の素材の約 85%が市外で流通しているということは、市内で伐採された木が原木のまま約 85%が市外で流通しているということですか。
担当部	そうです。
委員	市内の製材業者は、市内の素材を製材しているのではなく、市外の素材を主に製材しているということでしょうか。
担当部	そうです。
副委員長	<p>現在、複数の従業員を雇用し、宍粟材を製材している業者は、兵庫県木材センターを含めて、3社しかありません。市内には約 18社ありますが、この3社以外は南洋材を取り扱っており、梱包材やパレットを製材されています。</p> <p>昭和 35 年時点では兵庫県下の素材の搬出量が 90 万^mであり、これは兵庫県の過去最高の搬出量となっております。その当時、この地域には、製材業者が 89 社あり、素材業者は 154 社ありました。</p>
委員	その当時は、市内の素材を市内で製材していたということですか。
副委員長	<p>そうです。ただ、当時は建築材のみではなく、電信柱、梱包材等も含めて 90 万^mという数値が、兵庫県の過去最高の搬出量となっております。平成 21 年だったと思いますが、17 万^mまで落ち込み、今はやっと 42 万 6 千^mまで挽回してきています。木材の使用は、バイオマス、製紙等もありますが、県に対しては、建築材への使用についての助成、特にエンドユーザに対しての助成についてお願いをしているところです。宍粟市でも市内に宍粟材を使用して建設した住宅に対し助成を行っていますが、宍粟材を普及促進するという目線で、市外で宍粟材を使用して建設した住宅に対しても助成を行ってみたいと思っています。</p>
委員	素材業者、製材業者共に生き残りを経て今の形になったのが現状であると思います。現在の状況で、市内の 3 社以外の製材業者に宍粟材を取り扱ってもらい、循環させようとしても、その需要がないと採算が合わないと思うのですが、その辺りについて市として見えている部分はあるのでしょうか。
担当部	素材業者、製材業者共に聞き取り等調査を進めていき、市として何か支援できることはないか検討していきたいと思っています。

副委員長	材木は見た目だけでは、産地等の判断はつきませんが、加工をすることによりブランド化することが可能であると考えています。その方法として、「乾燥」ということが挙げられると思います。
委員	工務店からすると宍粟材は使いやすいのかどうか。買いやすいのかどうか。一般の方が日曜大工等で使用する材を宍粟市内の製材所は個人で頼んでも受け付けてくれないと聞いたことがあります。工務店、一般の方を含めて市内の製材業者に頼むと、宍粟材を配送したりしてくれるのでしょうか。
担当部	材木は見た目だけでは産地等の見分けはつきません。紀州や吉野のブランド化を図られている材木は高品質ですが、宍粟材については、特に強度がある等の長所もなく、品質にばらつきもあり、今のところ特に宍粟材を欲しいという顧客はいません。その中で、宍粟材の何が売りになるのかと考えますと、豊富な森林資源を活かし、安定して材木を供給できる、顧客のニーズに合うどのような材木でも宍粟材で供給できる、というところが売りになると考えております。また、その体制づくりが今後必要であると考えています。
委員	材木には高級材、低級材等あると思いますが、どちらかと言えば宍粟材は低級材にあたるのですか。
担当部	産出する地域にもよります。
委員	東京オリンピックの会場に宍粟材が使われる予定はないのでしょうか。
担当部	予定はありません。
副委員長	昔の製材業者は分業で製材をされていました。同じものを大量に製材することで効率化を図りコストを削減して、利益を生んでいました。そこで必要となるのが、在庫をする機関です。それが、問屋であり市場でした。市場はこの地域では壊滅しました。残っているのは大阪だけです。昔は、市場が集めた材木を小売業者が邸別に購入するというシステムとなっていました。今となっては、製材業者、市場、問屋、小売業者が激減してしまっています。この地域のみならず、他の地域でも昔の流通システムが破綻しているのが現状です。昔の流通システムを復活させるためには、問屋の機能を備えた製材所が必要であり、そのためには行政の支援も必要と考えています。
委員長	【資料 2-1】で川上の前の現状について、特に生産森林組合の現状について

<p>担当部</p>	<p>説明をお願いできますか。</p> <p>市内には、生産森林組合が 63 団体あります。旧山崎町が 27 団体、旧一宮町が 36 団体あり、その内 4 団体が休止となっています。木材価格が低迷する中、材木を販売する利益よりも搬出するコストが高い、法人市民税が課税される等の理由により森林経営をしていくこと、また、組合を存続させていくこと自体が困難となっているのが現状であります。</p>
<p>委員長</p>	<p>初めて聞く話の内容がたくさんありました。他の委員の方も同様ではないでしょうか。やはり、地域の現状を知らせていくということが必要かと思います。しそう森林王国という大きな看板と実態とのギャップを感じました。</p> <p>現実を見て、「どうしていくのか」という議論をしていかないといけないと思います。構造を変えるというのは非常に難しいことですが、それをしないと効果は上がってこないと思います。今回初めて、フロー図の中でどういう方が関係しているのかが分かりました。今回の切り口は、補助金の関係となっておりますが、それだけに限らず、これからは商業、農業、観光含めて、トータルで広い視野で捉えていくということが大切だと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>続いて【資料 2】の県立森林大学校に係る事業について担当部である企画総務部の地域創生課より説明をお願いします。</p>
<p>担当部</p>	<p>【資料 2（県立森林大学校学生住居整備事業）】 【参考資料 2－3】について説明</p>
<p>委員長</p>	<p>事業としてはシェアハウスの整備となっておりますが、他の面も含めて、県立森林大学校と宍粟市の関係をどうしていくのか、という観点でご意見いただければと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>森林大学校のある一宮地域の方からの声はありますか。</p>
<p>担当部</p>	<p>地元の行事等に地域の一員として参加してもらうように、地元の方から、また、学校からも学生へ声掛けをしてもらっています。例えば、藤棚の剪定、地元運動会等へ参加することで、色々な世代の方と交流をされています。また、清掃等の体力のいる行事については、地域としても助かっているという声を聞いています。</p>
<p>委員長</p>	<p>森林大学校の学生のうち、市内出身者の方は何名いますか。</p>

担当部	初年度で3名です。山崎が2名、一宮が1名となります。2年目の学生も、ほとんどが市外の方となっています。
委員長	元々、自分の地元に戻るという前提で入学されている方もいると思いますし、そうではない方もいると思うのですが、宍粟市内に就職する意向である学生数が、15名のうちの半分ということで良いですか。
担当部	今年度卒業予定の15名のうち、約半数が市内での就職を希望しています。元々、地元に戻る予定で入学した学生であっても、市内の兵庫木材センターでのアルバイトを通じて、宍粟市で就職してもいいかなと、考えを改める方もいると聞いています。そういったところで、市内の林業事業体と学生が触れ合う場というのは大事なことでと考えています。
委員長	森林大学校の学生と市内の林業事業体とのマッチング、また、林業以外の企業も含めたマッチングについて市の取組等がありますか。
担当部	7月上旬に、西播磨管内の林業事業体の合同就職説明会を開催予定です。現在の2年生については、自分で就職体験をする場所を探すということになっていきますので、この説明会で学生は色々な企業を見て、その中で就職してみたいと思う企業に職業体験を希望されると思います。宍粟市内の業者も多く参加しますので、効果が上がることを期待しています。
担当部	森林大学校が開校されたのが昨年であります。大学校の先生も初めての経験となっており、インターンシップ、就職斡旋等については全体的にスケジュールが遅れていると感じています。職業体験については、2学期に20日間程度、学生が自分で選んだ林業事業体に行くことになっており、能動的に体験できるのではないかと考えています。1年生については、前半後半に分けて、一週間ずつ、1年に2回職業体験を行うという取組も行われていますので、これを繰り返すことにより、経験値も上がり、市内での就職へつながると思っています。ただ、今年は全てが初めてですので、難しい部分もあるのではないかと考えています。
委員	森林大学校に市内企業の求人は届いているのですか。
担当部	具体的にどこの企業かは聞いていませんが、届いていると聞いています。
委員	林業事業体に限らず、他の一般企業等からの求人はないのですか。

担当部	<p>学生の中には、国の補助金を活用して入学されている方が多く、毎月 10 万円程度が支給されています。国の補助金は卒業時に林業事業体に就職しない場合は一括で返済することとなり、学生にとっては大きな負担となることから、補助金を活用されている学生は、林業事業体以外への就職というのは厳しいのが現状となっています。</p>
委員	<p>【資料 2（林業担い手育成対策補助金）】林業担い手数の目標値について、平成 29 年度は 175 名となっていますが、175 名を達成できれば担い手としては十分な数と考えてよろしいでしょうか。市の目指す先として、175 名という人数が余剰となるのか、それとも不足しているのか、どちらになるのでしょうか。</p>
担当部	<p>間伐しなければいけない面積がたくさんあり、その作業をカバーができるだけの人材を確保しなければならないという視点での目標であるので、目標値を達成したからといって、余剰であるとも不足しているとも言えません。</p>
委員長	<p>多くの場合は現状の数値に対し、何%増やしていくというような目標となっているのですが、その現状のバランスが崩れている場合は、目標値も不整合となってしまいます。今は、3 年、4 年のデータしかないので、もう少し推移を見ながら、現実的であり意欲的な目標を設定していく必要があるのではないかと思います。前提条件を見て、点検をしていただければと思います。</p>
委員長	<p>事業の詳細が分からないと質問ができないというような内容で申し訳ない部分もありましたが、こういった情報を共有しながら、広く発信して色々なところで議論をしていかなければいけないということをお願いしたいと思います。</p>
事務局	<p>(3) 平成 29 年度の実施事業と平成 30 年度の取組について 【資料 3】【参考資料 3-1～3-4】 について説明</p>
委員	<p>宍粟市版若者会議等の意見を評価するのはいつ頃になりますか。</p>
事務局	<p>次回の 8 月以降となる予定です。</p>
委員長	<p>評価するときは、評価の基準を持っておくべきであると思います。明確な基準を持っていないと、採用されなかった側も納得することができないこととなります。</p>
委員	<p>採決権はこの委員会にあるということでしょうか。</p>

事務局	<p>評価をできる限り反映していきたいと考えていますが、評価していただく事業は、実施していくという方向性で進めていきたいと考えています。その中で手法や進め方など、委員会でアドバイス、助言的なご意見をいただきたいと思っています。</p>
委員長	<p>予算の執行権は市長にありますので、最終的な判断は市長が行うことになると思います。この委員会の位置付けは、様々な意見を参考意見として出すということでしょうか。最終決定をする場はこの委員会ではない、ということによるのでしょうか。</p>
事務局	<p>そのとおりです。</p>
委員長	<p>経済の活性化を進めること、人口減少の問題等について対策を練らないといけないと考えます。人口流出に歯止めをかけるためにも、地元で生活できる条件を作っていくということで、それが【参考資料3】内のアクションプラン3の生活圈ネットワーク構想として、一宮、波賀、千種それぞれに生活圈の拠点づくりを進めるとありますが、地元の皆さんが当事者意識を持って参加をしてもらおうということが一番肝心であると思います。参加者をどう増やしていくか、また、多様な年齢層の方にどう参加してもらおうのかが重要となると思うのですが、現状としてはどうなっていますか。</p>
事務局	<p>千種では色々な世代の方に集まっていただいて、委員会という形の中で昨年度から協議を行っています。拠点づくりに向けた全体的な計画は固まりつつありますが、計画に沿った具体的な取組については、今年度進めていく予定としています。</p>
委員	<p>拠点づくりとは具体的にどういうことか。形としてどのようなものかが見えない。</p>
事務局	<p>拠点というのは、施設という意味ではなく、行政施設や小売店、銀行等がある一定の生活が送れるエリアを拠点として維持していくことで、転出者を減らしていこうとしております。</p>
委員	<p>千種では、市民局から離れたエーガイヤに保健福祉課があり、行政施設が分散していますが、今後どうなっていくのですか。</p>
事務局	<p>千種では、行政施設である市民局、市民センター、エーガイヤの3つの施設</p>

<p>委員長</p>	<p>について、市民局の建物を建て替え、複合化することで人が集まるような拠点を整備し、周辺も活性化させていきたいと思いますという方向で進んでいます。</p> <p>買い物の問題は深刻になっています。佐賀県ではイオンが撤退するという話があり、地元の方にとっては深刻な問題となっています。地域によっては、地元の方がお金を出し合って、ガソリンスタンドや買い物ができる施設を運営しています。問題解決のためにコミュニティビジネスを行って、自分たちの力で自分たちの生活環境を守るといったような活動もあります。場合によっては、宍粟市でもコミュニティビジネスが必要となるかもしれません。地元の方々に参加してもらい、今後どうしていくのかということ話し合う場を設けなければならないと思います。話し合いを行うソフト面と老朽化施設等の更新というハード面を一体で進めるのが、拠点づくりでは大切だと思います。拠点づくりについて市民へ周知を図り、参加者を拡大する中で総合計画の考え方も広めていただければと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>一宮については、委員会に答申をもらうというような方針で進めていました。千種については、過去 11 回ほど開催していますが、会議内容について毎月、市広報と共に会議内容を旧千種町内に全戸配布しています。波賀についても、同様の取組を行う予定としています。</p>
<p>委員長</p>	<p>市民と共に問題を解決していくための仕組みを作っていくことが原則であると思います。その中で、できること、できないことがあるとは思いますが、時間をかけて議論していくしかないと思います。その中でもスピード感を持って、先送りにせず議論していかなければいけません。</p> <p>若い世代に参加をしてもらい、若い世代の活動が活発になるように経済的に支援をしていく等、若い世代の意欲を挫かないような形でどう評価をしていくのかということを考えていきたいと思っています。その節は皆さんにご意見いただければと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>次回の会議は 8 月となっていますのでよろしくお願いいたします。</p>
<p>副委員長</p>	<p>本日は専門的な内容となりましたが、経済の衰退というのが宍粟市の課題であると思います。宍粟市の資源は林業ですので、資源を活かしていきたいと考えると共に、皆さんの知恵をお借りしたいと考えています。コミュニティビジネス等についても、行政、市民が知恵を出し合うことによって宍粟市が活性化するように皆さんにお願いし、閉会のあいさつとさせていただきます。</p>